

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

第36号

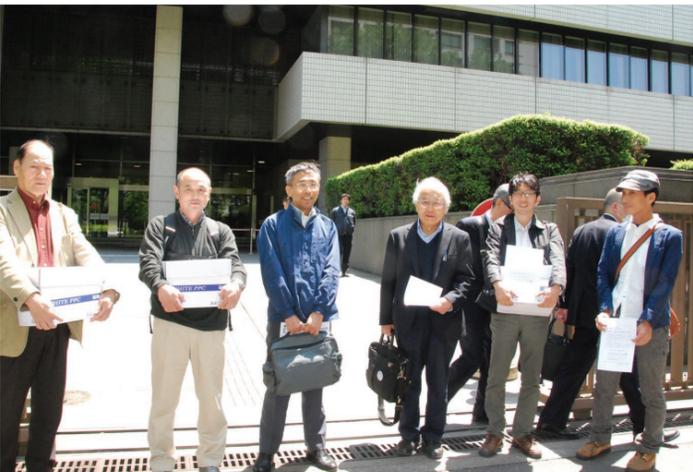
2013年5月15日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局  
千葉市中央区要町2-8 DC会館内  
TEL 043-222-7207  
nationwidemovement@yahoo.co.jp

鉄建公団  
訴訟

# 難波裁判長の結審弾劾！

## 6・9集会の大結集で反動判決うち破ろう



時代が大きく動き始めた

田中康宏 (動労千葉委員長)

解雇撤回の新証拠！

6・9集会の成功に向けて訴えたい一点目は、5月8日の東京高裁・難波裁判長による一方的結審についてです。本当に一方的な結審でした。高裁でわずか3回の審理、実質的には何も調べないままです。

「国鉄闘争の火を絶対に絶やさない」という意思が大きく動いていると感じます。安倍政権の公務員攻撃を一つの戦略にした全労働者への賃下げ攻撃、労働規制緩和、自治体丸ごとの民営化、果ては改憲にまで進む大きな流れの中で、僕らが国鉄闘争を継続していることを敵は大きく見て、これをなきものにしようとする。



している。

私たちは、小さな形でも闘いを継続することで、いよいよ国鉄分割・民営化の闇の部分、本質を暴き出すところにいる。この過程で分かっていたことがあります。国鉄の解雇はどのように正当化されたか。「国鉄とJRは別会社だ」という建前を法的につくり、国鉄が採用候補者の名簿を作成し、JR

の設立委員会はその名簿は全員採用した。だからJRは不当労働行為を一切やらない」という構図をつくった。でも実際は、葛西(職員局長)とJR西日本の社長になった井出(国鉄総裁室長)が、設立委員会委員長の斎藤英四郎(日経連会長)のところに「自分たちが基準をつくったら不当労働行為になるから設立委員会として処分を受けているよ。うな者は採用しない」という基準をつくってくれ」とねじ込んだことが明らかになった。

高裁 難波裁判長による結審強行弾劾！  
東京 第1次 1万6958筆を提出  
5月8日、国鉄1047名不当解雇をめぐる鉄建公団(旧清算事業団)訴訟控訴審において「解雇撤回・JR復帰」の判決を求める署名1万6958筆を東京高裁に提出しました。署名を送って下さった全国のみなさんに感謝申し上げます。裁判は、難波裁判長により結審が強行されました。難波裁判長は解雇の張本人である葛西敬之(現JR東海会長)らの証人申請を却下し、国鉄分割・民営化の真実を明らかに

することなく、一方的に審理を打ち切ったのです。国鉄分割・民営化による採用差別は「国鉄とJRは別会社」という詭弁で正当化されてきました。国鉄が採用候補者名簿を作成し、JRは名簿記載者全員を採用した。だから不当労働行為があってもJRには責任がない」と。しかし、それはまったくウソだったのです。今回の裁判で動労千葉が新たに証拠として提出した、JR西

日本・井出正敬会長(当時)を囲む『国鉄改革前後の労務政策の内幕』(2000年9月)なる座談会記録では次のように語られています。「選考基準は、斎藤さん(JR設立委員会委員長)が作れと言ったので、不当労働行為と言われないギリギリの線で葛西が案を作り、それを斎藤さんに(JR設立)委員会の席上、委員長案として出してもらい、それは了承された」

千葉は「解雇撤回」の原則を貫き、闇に包まれた真実を一つひとつ暴いてきました。1審では採用候補者名簿からの排除は明確な不当労働行為意思によるものと認定させました。あと一歩で国鉄分割・民営化を打ち破るところまでできています。闘いは新段階に入りました。東京地裁では6・29判決を出した白石裁判長が民事11部総括判事の席から左遷される異例の人事が行われました。裁判所がなりふりかまわず国鉄闘争の根絶させようとしています。9月25日の判決日までに10万筆を集めるため職場や地域に署名を広げてください。

けいなく、いま政府がやろうとしている攻撃の土台はやはり国鉄方式であって、この国鉄方式を許さない闘いを継続してきたくこと、これを消さなければ前に進めないという支配者側の衝突だと思えます。6・9集会は本当に大きな意味を持っていると思います。

外注化攻撃が破綻  
二点目は、この半年間の業務の外注化をめぐる攻防とこれからの展望についてです。現場から見てみると、外注化攻撃そのものが破綻してきている。5月8日の強制出向無効確認訴訟の特徴は、組合員がどういふ委託契約のもとで出向させられ働かされているかがまったく明らかにならないということ。ここに絶対に弱みがあると考えています。

われわれは外注化され委託されたわけですから、そこをストに入れました。でもその日になると、ストに入れた業務は下請会社じゃなくてJRの業務に変わ

わっている。「今日はこの業務は委託しなかった」とJRの人間が仕事をしにくる。「それは、委託契約書で決めているからいいんだ」という言い方なんです。どう考えても、破綻に追い込めるといふ気がしてなりません。

貨物の賃下げ止める  
もう一つはJR貨物をめぐる問題です。公務員労働者と同様の、一律賃下げを、組合に提案する前に社長などが実質的に宣言するというのが起きました。これはJR貨物という一企業の問題ではなく、数千万人単位の労働者に賃下げ攻撃がかけられようとしているということ。だから僕らは自らの職

場をこれに阻止することで全体の利益を守りたいと訴え、貨物本社の行動とあわせて新宿でメーデー行動をやらせました。そうしたことも含めて、いったん貨物の賃下げ攻撃がストップする状況になりました。これは国鉄分割・民営化の全面的な破綻を示すものです。

1047名の解雇の問題、民営化の一番の目的であった業務の全面的な外注化、そして分割・民営化そのものが破綻している問題を追及する闘いをやっています。そういう意味で、6・9集会と国鉄闘争全国運動のもつ意味がもう一度鮮明になってきています。(5月10日呼びかけ人会議での発言から抜粋)

国鉄1047名解雇撤回！  
民営化と外注化、非正規化と闘おう！  
賃金・雇用破壊にストライキで反撃を！  
今こそ国鉄闘争の火をもっと大きく！

国鉄闘争全国運動6・9全国集会  
(日時) 6月9日(日) 午後1時(正午開場)  
(場所) 東京・文京シビックホール  
(呼びかけ) 国鉄闘争全国運動

5月10日の国鉄闘争全国運動の呼びかけ人会議で、呼びかけ人の葉山岳夫弁護士、鈴木達夫弁護士から重要な提起がなされました。6・9集会の成功に向けて重要な内容ですの、抜粋して紹介します。

### 分割・民営化の本質暴く

葉山岳夫 (弁護士/呼びかけ人)

昨年の6・29判決、さらにそれ以前に4・9政治和解を徹底弾劾し「国鉄1047名解雇撤回・原職復帰という労働運動の原則を守って闘い抜く」という一貫した闘争を動労千葉を先頭に私たちは展開してきた。

こういう中で、葛西は調べなかったけれども、伊藤嘉道の証言を引き出し、この証言の中で、



具体的に1987年に改革労協から鉄道労連に移行する過程で

特別決議まであげて「定員割れで全員が入ることは絶対反対だ。採用で差別しろ」とわめいて、それに葛西が呼応して不採用基準をつくった。

いったん名簿に登載されたものを削除することの不当労働行為性について、白石裁判長自身としてはギリギリの決断として、あそこで不当労働行為を認定せざるをえなかった。

その後、野田政権から安倍政権への移行も含め、これが全面的に階級的に焦点化した。難波法廷そのものも、今までの難波の対応とは違ってきている。労働運動全体の中で国鉄闘争全国運動のもっている意味は非常に大きくなってきている。なんと

してもこの運動を圧殺しようという階級的な意思があらわれてきている。これに対して徹底的な闘争が期待されている状況だ



5月1日、動労千葉・動労総連合の呼びかけでJR貨物本社に対する抗議行動が行われました。500人を超える労働者が新宿駅南口の近くにあるJR貨物本社前に集まりました。

### JR貨物本社を包囲

#### 5・1新宿メーデー行動

JR貨物は、安倍政権による公務員賃金の7.8%一斉削減に乗じて、一方的な大幅賃下げを画策し、5月にも賃下げ実施に着手する構えがありました。

しかし、動労千葉が明確に「賃下げ絶対反対」を訴えて行動を

開始したことも含めて、JR貨物全体に怒りの声が広がりました。裏切り妥結を狙っていたJR総連・日貨労も「反対」のポスターをとりまくるを得なくなりました。

JR貨物は5月実施を断念しましたが、あくまで大幅賃下げをたくらんでいることは変わりません。貨物本社前では「10数年連続でヘアゼロや超低額のボーナスで賃金を抑制し続けた挙げ句の

果てに今度は賃金カットを強行しようとしている。国鉄分割・民営化のツケを労働者に転嫁するな!」との訴えが貨物本社を圧倒しました。

分割・民営化の破綻を責任転嫁  
貨物会社は、発足時に職員数約1万2千人でスタートし、現在は約半数の6千人強に半減しています。にもかかわらず貨物会社は「13年度事業計画」において、昨年度の経常利益5億円を「思い切った人件費抑制で34億円の経常利益をめざす」として

「6・29判決は間違っている」と言うんですよ。そこまで敵を追い詰めていた。これは何か起こるぞと思っていたら白石が裁判に来ない。すぐに調べたら、人事異動欄にもない。4月1日にも白石裁判長は地裁民事11部にいることになってた。



国鉄闘争は日本階級闘争の焦点。その中で敵はポロポロになっっている。そこがはっきり見えた。「白石事件」と私たちは呼び始めているんですが、3月13日に国労の組合員資格回復裁判で、法廷の廊下にある日程表には白石裁判長と出ていた。入っ



「6・29判決は間違っている」と言うんですよ。そこまで敵を追い詰めていた。これは何か起こるぞと思っていたら白石が裁判に来ない。すぐに調べたら、人事異動欄にもない。4月1日にも白石裁判長は地裁民事11部にいることになってた。